



KAKEHASHI Project 派遣プログラム (米国／高校生・大学生・大学院生) の記録

1. プログラム概要

「対日理解促進交流プログラム」の一環として、米国へ日本の高校生、大学生ら計 76 名が派遣され、日本の政治、社会、歴史、文化に関する理解促進や、日本の魅力等の積極的な発信を目指し、平成 27 年 11 月 17 日から 11 月 24 日までの 5 泊 7 日の日程でプログラムを実施しました。

2. 参加校・人数

沖縄県立浦添高等学校	13 名 (うち引率者 1 名)
沖縄県立普天間高等学校	13 名 (うち引率者 1 名)
国立佐賀大学	25 名 (うち引率者 2 名)
国立徳島大学	25 名 (うち引率者 2 名)
計	76 名

3. 訪問国

アメリカ合衆国 ニューヨーク市

4. 日程

11 月 17 日 (火)	JF ケネディ国際空港に到着
11 月 18 日 (水)	【表敬訪問】 在ニューヨーク日本国総領事館 【市内視察】 国連本部、ブライアントパーク タイムズスクエア
11 月 19 日 (木)	<u>高校生</u> 【学校交流】 クラークスタウン・サウス・ハイスクール 【市内視察】 バッテリーパークとタイムズスクエア <u>大学生</u> 【学校交流】 ラガーディアコミュニティカレッジ
11 月 20 日 (金)	<u>高校生</u> 【学校交流】 クラークスタウン・サウス・ハイスクール 【ホームステイ】 <u>大学生</u> 【学校訪問】 コロンビア大学キャンパスツアー 【現地学生と市内視察】 スタテン島 9/11 メモリアル
11 月 21 日 (土)	<u>高校生</u> 【ホームステイ】 <u>大学生</u>

【市内視察】フィリップスバーグマナー

都市再開発地区：ハイランドパーク チェルシーマーケット

11月22日（日） 高校生

ニューヨーク市へ移動

大学生

【グループ活動】ブルックリン橋、MOMA 等

コロンビア大学にて阿波踊りと太鼓の交流活動

共通

【ワークショップ】 報告会の準備

【講義】 国連 JP0 による講義

【報告会】

11月23日（月） JF ケネディ国際空港から出国

11月24日（火） 成田国際空港到着

5. KAKEHASHI Project 派遣プログラム記録写真（派遣国：米国）

	
11/18 【表敬訪問】 在ニューヨーク日本国総領事館	11/18 【視察】 国際連合本部
	
11/19 【学校交流】 クラークスタウン・サウス・ハイスクール	11/19 【学校交流】 ラガーディアコミュニティカレッジ

	
11/19【学校交流】ラガーディアコミュニティカレッジ	11/20【学校交流】クラークスタウン南高等学校

6. 参加者の感想

◆ 普天間高等学校 高校生

高校訪問の際に、現地の高校生と交流して感じたことは、日本の文化を正しく理解していない人が多いと感じました。ほとんどの人が、日本の文化は漫画、アニメだけと思っている人が多く、残念に感じました。私は、帰国後にニューヨークで感じた日本との違い、お互いの良いところ、たとえば、日本は道が綺麗で、人々の行動にけじめがあること、アメリカは、積極的に自分の意見を言う、多民族国家なので、多文化が融合している、違いを理解しようとするなど、を発信したいと思いました。

◆ 浦添高等学校 高校生

アメリカでは、トイレ、レストラン、お店などが汚く、驚きました。また、学校での授業中、とても自由で、お菓子を食べたり、飲み物を飲んだりしていて、もう少しけじめがあったほうがよいのではないかと思います。日本は、道もとてもきれいで、授業は初めも終わりも挨拶をして、けじめがあるので、それは日本の良い面であると思いました。逆に日本が見習うべきだと思ったのは、教会でホームレスの人たちへの食事を提供していて、福祉が充実しているところでした。また、小さいときから、学校で様々な言語を教えられていて、様々な文化に触れる機会があるのは、うらやましいと思いました。

◆ 佐賀大学 大学生

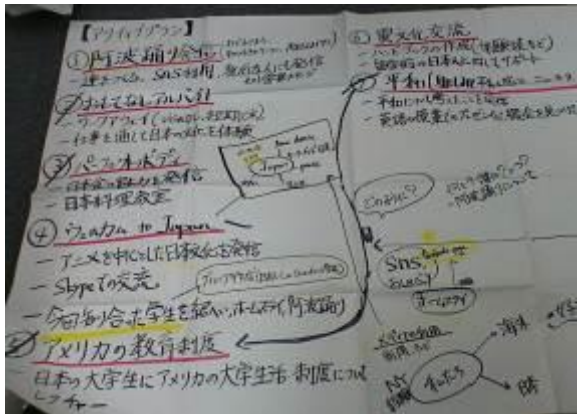
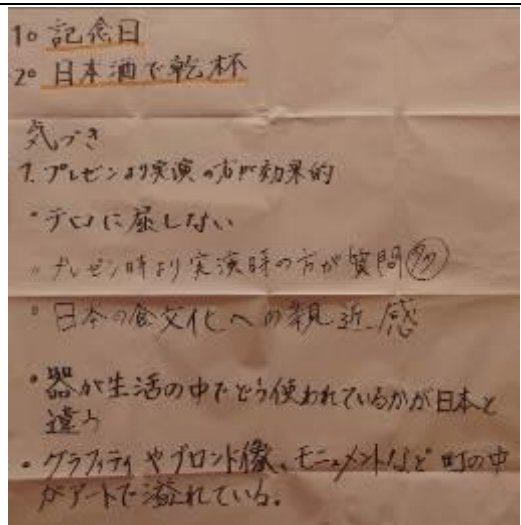
1つ目は、もちろんアメリカに住んでいる人々に日本について身をもって体験してもらったことです。有田焼や日本の精神など実際に行ってみないと文化というものは理解されないが、今回は楽しんでくれたし良いところや悪いところなど話題にもなりました。日本と米国を結ぶ KAKEHASHI になれたと思います。2つ目は私たち自身が日本について知らなかったことを知りより知識を得ることができたことです。いかに自国のことを知らないか、愛国心がないかを思い知りました。日本人として日本についても考える良いきっかけになりました。帰国後も仲間と一緒に日本の文化も US で学んだ日本との同じところ、違うところを SNS を活用

して広めようと思っています。

◆ 徳島大学 大学生

今回の訪問を通じて本当に沢山の経験をしました。その中でも日本国総領事館を訪れたときに聴いた外交を考える上でも大切なことのお話がとても印象に残っています。発信するとは一方通行の押しつけであってはいけない、相手との会話のキャッチボールが大切。そして話し合う意志があるということを相手にわかってもらわなければ言っても無駄、と思われるってしまうかもしれない。そのために相手のほしがっている興味のあることについて感じ取ることができたほうがいい。面白いやつだと思ってもらえたらしめたもの、ということを感じて、ただ何も考えずに楽しいだけが国際交流ではいけないと思いました。その教訓をさっそく心にとめてのぞんだ La Guardia College の学生との交流会では何人かの学生ととても面白い議論ができてプログラム後もつながっていくことが出来そうです。やってみてダメならそのときにまた考えよう、とにかく後悔しないように発言してみよう、そんな風にすでに変わりつつあるように思います。

7. 参加者の帰国後の発信内容

・ 阿波踊り発信—SNS ・ おもてなしアルバイト ・ パーフェクトバディー—日本食の魅力、料理教室 ・ ウェルカムジャパン—アニメ等発信 ・ ホームステイ知り合ったアメリカ人学生等を受け入れる - 異文化交流—ハンドブック作成	
アクションプラン（徳島大学）	アクションプラン（徳島大学）
<有田焼と日本酒のコラボレーション> ラガーディアコミュニティーカレッジでの 効果 実演体験—双方のコミュニケーションが可能 —参加者が楽しめる 対象—留学生と外国の人 佐賀県の「乾杯プロジェクトの日」2016年 日本文化と佐賀の文化を楽しんでもらう —SNS発信	
アクションプラン（佐賀大学）	アクションプラン（佐賀大学）

日本のいいところ、伝えたいこと ・アニメや漫画や侍等のことは知っているけれど、日本の学校や普段の生活習慣などについて伝えていく必要がある。――相手を思いやって、規則を守ることや、安全であること。 ・日本は、定期的に掃除をするから綺麗であること。全員で掃除をするから綺麗であること。	アクションプラン ★派遣の経験を伝える ・学校報告―全校生徒に向けて ・身近な家族や友達に伝える ・小学生に伝える―近隣の小学校に行く。 外国のことに興味をもつように。 ★日本を紹介する ・SNS 発信―世界の人に向けて ・グローバルトーカー訪問校クラークスタウンサウス校の生徒に向けて、日本のことを伝える
アクションプラン（普天間高校）	アクションプラン（浦添高校）